「パパは勝ったぞ」

父の日に家族の前で初V

プレーオフ1ホール目でバーディー

《２０２４九州オープン選手権》

通算４アンダー　２８４

林　拓希（フリー、３７歳）

家族の目の前でパパはエッヘンだ。第３ラウンドが終了した時点で首位に１打差の３位。優勝争いのまっただ中にいる林の勇姿を一目見ようと、最終日前日の夜に家族が大分に集まった。麗美夫人と３人の女の子は住まいのある茨城県から、両親は鹿児島県霧島市から、それに林の妹も応援に駆け付ける。

心強い援軍をバックにパパは奮起した。前半のアウトを３バーディー、ノーボギーの３３。通算６アンダーとして首位で折り返すまでは良かったが、後半に入ると１１、１４、１５番とボギーに見舞われる。そんな時に１６番ショートで「パパ頑張って」の声援が耳に入る。「パパという声が聞こえて、もう一息頑張ろう、と」とエッジからの７ｍをねじ込み、通算４アンダーで藤島とのプレーオフに持ち込んだ。１ホール目は１８番ロング。林はピン左２０ヤードのラフからの第３打を１ｍ弱につけてバーディーを奪って、パーの藤島を退ける。優勝が決まると、子どもたちが一斉に駆け寄った。「ラウンド中に子どもの声が聞こえると泣きそうになって…。子どもたちに試合を見せたこともなくて、勝てて嬉しい」と体重９０キロの体いっぱいに喜びを溢れさせた。

大分とのつながりも口にした。「歴史のある九州オープンに勝てて、心底嬉しい。大分で研修生をして、大分でプロになった。そして、大分での九州オープンに勝てた。心に残ります」

林は国分中（鹿児島県霧島市）１年の時にゴルフを始め、福岡の柳川高に進む。卒業後は大分の城島高原ＧＣで研修生となり、２１歳の時に３度目のプロテストで合格。その後、茨城のザ・ロイヤルＧＣではキャディーマスターの仕事が中心となり、５年ほど試合から遠ざかる。同ＧＣを退職し、４年前から競技に復帰。今大会は２０１５年以来９年ぶりの出場となった。

「一度ゴルフをやめたことで、ゴルフをするのが楽しくて仕方がない。以前は結果を出さないといけないと思っていて。今は楽しみながら回れている」。林にとっての５年間はいい意味でのリセット期間となったのかもしれない。念願の九州オープンのタイトルを獲得したことで、初の日本オープン出場も手に入れた。「出るからには優勝目指して頑張ります」とノリノリである。

【写真は娘さんたちに祝福される林】

プレーオフを制して初のベストアマ

東海大九州３年・遠藤　崇真（皐月）

遠藤が５月の九州学生選手権に続き、初のベストアマのタイトルを獲得した。「からくも勝ったという感じですね」と淡々と語った。通算１オーバー２８９で６歳年下の日章学園中３年・長﨑大星とのプレーオフ。トスで遠藤が最初のティーショットを打つことになる。「ドライバーの調子は良かったのでプレッシャーをかけられる」。１ホール目の１０番ミドルはともにボギーで、続く１１番ミドルでは遠藤は第１打をフェアウエーのセンターに。直後に長﨑が右ＯＢしてボギー対ダブルボギーで遠藤の思惑通りの結果となった。ただ、タイトルは取ったと言っても「４日間ティーショットは安定していましたが、もっとグリーン周りやパットの精度を上げないといけません。良かったのは初日だけでした」と第１ラウンドを６８の首位で飛び出しながらの８位タイには不満げだった。

《大分ＣＣ月形コース》